

WWF クライメート・セイバーズ シンポジウム

気候変動が変えるビジネスの 在り方

2010年3月12日

世界貿易センタービル

国連環境計画・金融イニシアティブ
特別顧問 末吉竹二郎

COP15からCOP16へ

COP15の狙い

- ① 先進国の大幅な削減の数値目標
 - ・ 2050年までに世界で半減も
- ② 途上国の削減へむけた取り組み
 - ・ しっかりしたVerificationの下で
- ③ 先進国から途上国への支援
 - ・ 技術、資金
- ④ ガバナンスの確立
 - ・ 全体を**法的拘束力**のあるもので

The Copenhagen Accord

—a great failure—

- ① 28カ国首脳会議の状況
- ② 議長国の不手際
- ③ G2—鏝迫り合い
- ④ EU, 日本のか不足
- ⑤ 途上国グループの分裂

合意文書への署名

① 直近で110カ国程度

② 主要国の目標や計画

日本 25% (1990年比)

EU 20%~30% (同上)

米国 17% (2005年比)

中国 40~45% (GDP比)

印度 20~25% (GDP比)

③ 科学的要請に対しては、大幅未達！

ポスト京都へ向けて

① 何をベースにするのか？

- ・コペン合意を土台
- ・UNFCCCの枠組み(KPとLTA)
- ・G20他

② 米国の議会は？—KLGの努力は奏功するのか ～COP16ではなく、COP17へずれ込む？～

にも拘らず、世界は低炭素化へ

オバマ大統領のスピーチ

— COP15、12月18日

①COP15の**成果如何にかかわらず**、米国は

- CO2削減
- クリーン・エネ経済
を、目指す

②なぜならば、

- 海外へのエネルギーへの依存度
- 気候変動がもたらすリスク
を、軽減することで、「**国家安全保障**」になるからだ

米、環境・省エネへ支援強化

—2009年12月、＜太陽電池・風力発電など＞

- 税制優遇枠：23億ドルを73億ドルへ
- 民間資金：150億ドル呼び込む
- 太陽光工場：500億円の借入保証by政府

—2010年1月、＜雇用確保の政策＞

- RE180社に23億ドルの税優遇で+17千人
- 環境技術で日本などを追い抜き、**リーダー**に

SECの歴史的転換

—気候変動関連情報の公開へ—

- ① 09年10月、株主提案に回答せよ
- ② 10年1月27日、ガイドラインの見直し発表
- ③ 10年2月8日、同発効

- ④ 2009年3月、NAIC(米国保険規制当局)
 - ・CCのもたらす財務リスクとそれへの対応策を義務として報告せよ

メインストリームの本格的取り組み

① USCAPの規制導入の要請

- ・BP, Conocoなど3社脱退、3社加入

② 米商工会議所からの脱退

③ GE:エコマジンネーションの展開

④ Wal-Mart: Sustainability Index の実験

EUの巻き返し

EU: 2020年、20～30%削減

フランス: 憲法改正「前文に環境権」(05年)と
サルコジ大統領 の「グリーン政策」(07年)

ドイツ: 2020年、40%削減を国内合意(09年秋)

英国: 気候変動法(08年)、洋上風力への大型投資
(£750億、70千人の雇用創出)

EU, 炭素税の義務付け？

① EU域内の炭素税

- ・90年 フィンランド導入
- ・90年代 北欧3国、独、イタリア
- ・01年 英国
- ・10年 フランス、アイスランド

② EU27カ国に炭素税の最低税率を義務付けか

～EU-ETS と 炭素税 の2本立て

The EU 2020 Strategy

ーリスボン戦略(～2010年、成長と雇用)の後継

<狙い>

- ・危機からの早期完全脱出
- ・よりグリーン、より持続可能な、より技術革新的
経済の構築

<主要な柱>

- ・知識を基盤とする成長による価値の創造
- ・オープンな社会で人々のパワーアップ
- ・競争力あるよりグリーンな経済の構築

そして、中国も韓国も

一中国

- 循環型経済促進法(09年)
- 次期5カ年計画(11~15年)
- やがて、環境産業大国へ

一韓国

- 低炭素グリーン成長基本法(10年1月)
- Global Green Growth Initiative

ビジネス・ルールが変わる

競争原理が変わる

—CO2基準の導入

- ① 炭素効率(carbon efficiency)の競争
- ② もう一つのROC(Return on Carbon)
- ③ Carbon Chief Officer の登場

グリーン金融が動く

—CO2削減がキーワードに

- ① 金融自らのCO2削減
—The Climate Principles

- ② CO2排出＝「負債」と見る

- ③ Lender's Liability の回避

お金をお金以外で計る

—CO2排出情報が追加

① Carbon Counts USA

② 環境格付ランキング

—Newsweek誌

グリーン消費革命の進行

ーグリーン消費者の拡大

- ① ISO14067(2011年11月)
 - ・カーボン・フットプリントの国際規格
 - ・カーボンフットプリント試行事業(経産省)
- ② Wal-Mart の Sustainability Index
- ③ ロハス層の拡大 = Sustainabilityが中心に

ブラウン経済から、グリーン経済へ

経済の入れ替わり

- ① 20世紀型「成長至上主義」の終焉
 - 短期的／排他的／環境破壊的
 - “at any cost”の経済成長

- ② 21世紀型「グリーン・エコノミー」の登場
 - 長期的／包括的
 - 環境保全型
 - 持続可能な社会をめざして

GDPの見直し

- ① GDP第2位からの陥落
- ② お金だけで考える時代は終わった
- ③ サルコジ大統領の新経済指標「幸福度」
 - ・健康、教育、安全、格差、持続可能性
 - ・次世代に引き継ぐ価値

あるスウェーデン人の述懐

ー S.クレツソン

- WWⅡ後、我々はあまりにも簡単に幸福になりすぎた。
- 物質的には豊かになったが、「平安」と言うべきものを使い果たした。
- 小農民、小職人、小商店、小さな学校、小さなダンスホールがみな姿を消した。
- 小さなものは儲けが少ないというわけだ。
- 幸福への呪文は「**儲かる社会**」になったしまった。

日本の将来を考える

太陽電池の生産

年	国	シェア
2005年	日本	47%
	ドイツ	20%
	米国	9%
	中国	7%
2008年	中国	26%
	ドイツ	19%
	日本	18%
	米国	6%

時価総額でみると

順位	会社	時価(兆円)
①	トヨタ	13.3
②	MUFG	6.4
③	NTT	5.7
⑩	東京電力	3.1
⑳	三井物産	2.4
	Iberdrola(スペイン)	1.7
	First Solar(米国)	1.5

2009年12月30日

日本の弱点

- ① ヴィジョンと実績
- ② 長期と短期
- ③ 全体最適と部分最適
- ④ 仮説と現実
- ⑤ 内生と外圧
- ⑥ Yes と No
- ⑦ 個社と業界

「25%削減」をどう生かすか

青い地球

NASA Visible Earth

<http://visibleearth.nasa.gov/>

The Blue Marble

http://visibleearth.nasa.gov/view_rec.php?id=2429

The Blue Marble(ブルーマーブル)データは、可視光で捉えた地球の本当の色(true-color)を、数年にわたる膨大な地球観測衛星データの処理に基づき記録した画像データ。

昔の人の教え

地球を大切に扱いなさい

地球は親から相続で貰ったものではありません

それは子供たちから預かったものなのですよ

ご清聴ありがとうございました